

**平成 23 年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会
農用地総合整備事業「根室東部区域」 議事概要**

1. 実施日 平成 23 年 7 月 29 日(金) 13:30 ~ 15:30

2. 場所 農林水産省 農村振興局 第 4 会議室

3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学教授
安藤 光義 東京大学准教授
井上 京 北海道大学准教授
山路 永司 東京大学教授

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
(独)森林総合研究所森林農地整備センター審議役 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長選出

委員長に山路委員を選出した。

(2) 事後評価(案)について事務局より説明。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめられた。

(全体)

本事業は、国内有数の酪農地帯において、流通の効率化と農用地の高度利用を進め、地域農業の振興と農業経営の安定化を図る目的で、農用地及び農業用道路の整備を総合的に実施したものである。

厳しい自然条件を克服し土地利用型農業に新たな可能性を拓く区画整理、暗渠排水、土層改良は、農地の潜在力を強化するものとして高く評価できる。また、農業用道路の整備は、生乳輸送量の増大に対応する等、流通の効率化に貢献している。これら 4 つの基本的工種はそれぞれ必要かつ有効である。

(農用地整備)

牧草生産が酪農にとっては決定的に重要であり、区画整理による勾配修正は機械作業の安全性の向上や適期内での効率的な牧草収穫に貢献している。

暗渠排水や土層改良による排水能力の向上は、畑作限界地帯での農業再編を推進するための事業として、高く評価できる。現地ヒアリングにおいても農用地整備については更なる需要が認められた。

現在吹いている安全・安心な農産物を求める消費者層の拡大といった追い風を今後一層活かすためには、もともと寒冷で病虫害が発生しにくく減農薬が容易であるという地域の強みを生かした特産物の開発が喫緊の課題であろう。

なお、区画整理においては農地流動化と草地更新を同時に行う施策の推進や、土層改良等では定期的なフォローアップが必要と考える。

（農業用道路）

生乳輸送量の増大に対応するとともに、品質管理上も重要な地域の道路条件を飛躍的に向上させた農業用道路の建設の意義は極めて大きい。

道路ネットワークは、畑作におけるJAの取り組みや、牧草生産におけるコントラ（作業受託）やTMRセンター（混合飼料の協同生産組織）を支える上でも重要な役割を果たしていることは確実である。

農業用道路の3工区は、それまでの迂回通行を解消し、大きく時間短縮に貢献した。橋梁設計においても、環境配慮を含めたいろいろな工夫がなされており、軟弱地盤対策でも良い施工がなされている。

（以上）